

第14節 植物

対象道路事業実施区域及びその周辺には重要な種及び群落を確認されており、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

14.1 工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物

1) 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

a) 植物の生育の状況

植物相(維管束植物、藻類)及び植生の状況について調査しました。

b) 重要な種及び群落の状況

重要な種及び群落の状況について調査しました。

② 調査手法

a) 植物の生育の状況

植物の生育の状況の調査は、表 8-14-1 に示す現地調査により実施しました。

表 8-14-1 現地調査の手法

項目		調査手法	調査手法の解説
植物相	維管束植物	直接観察及び採取	調査地域内を踏査して、出現する種（シダ植物以上）を目視により確認し、種名を記録した。なお、現地での同定が困難な種については、採集し持ち帰って同定を行った。また、重要な種を確認した時は、確認位置及び生育状況等を記録した。
	藻類	直接観察及び採取	調査地域の主要な河川及び池を対象に踏査し、出現する種（藻類）を目視により確認し、種名を記録した。必要に応じてサンプルを採集し、分析室に持ち帰り、分析することにより、生育種の確認・記録を行った。
植生		植生調査（植物社会学的方法）	調査地域内に成立する代表的な植生について、各群落の構成種の状況を把握することを目的として、Braun-Blanquet(1964)に基づく植物社会学的手法（コドラート法）を用いて実施した。植物種の出現状況（被度・群度）、階層構造、優占種等を植生調査票に記録した。これらの結果をもとに群落を区分し、現存植生図を作成した。また、重要な植物群落の抽出を行った。

b) 重要な種及び群落の状況

(a) 重要な種及び群落の生態

重要な種及び群落の生態については、表 8-14-2 に示す図鑑、研究論文、その他の資料の収集により整理しました。

表 8-14-2 既存資料一覧

資料名	発行者	発行年月又は資料確認時点
日本の野生植物草本 I 単子葉類	平凡社	昭和 57 年 1 月
日本のスゲ	文一総合出版	平成 17 年 12 月
門真市ホームページ (門真市紹介 名所、史跡、文化財)	門真市	平成 27 年 3 月現在
レッドデータブック 2014ー日本の絶滅のおそれのある野生動物	(株)ぎょうせい	平成 27 年 2 月 平成 27 年 3 月
植物群落レッドデータ・ブック	(財)日本自然保護協会	平成 8 年 4 月
大阪府における保護上重要な野生生物ー大阪府レッドデータブックー	大阪府	平成 12 年 3 月
兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 2010 (植物・植物群落)	(財)ひょうご環境創造協会	平成 22 年 3 月
京都府レッドデータブック上巻 野生生物編	京都府	平成 14 年 4 月
滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県レッドデータブック 2010 年版ー	滋賀県	平成 23 年 3 月

(b) 重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況については、表 8-14-3 及び表 8-14-4 に示す選定基準に該当する種及び群落について、「a) 植物の生育の状況」の調査と併せて行いました。

表 8-14-3 重要な植物種の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年大阪市条例第 5 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「レッドデータブック 2014 8 植物Ⅰ」(平成 27 年 3 月、環境省) 「レッドデータブック 2014 9 植物Ⅱ」(平成 27 年 2 月、環境省)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅(飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) CR：絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) EN：絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種) VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) DD：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)
④	「大阪府レッドリスト 2014」(平成 26 年 3 月、大阪府)	絶滅：絶滅(本府ではすでに絶滅したと考えられる種) Ⅰ類：絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種) Ⅱ類：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) 準絶：準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種) 不足：情報不足(評価するだけの情報が不足している種) 要注：要注目(注目を要する種)
⑤	「改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿 2001ー」(平成 13 年、レッドデータブック近畿研究会)	絶滅：絶滅種(近畿地方では絶滅したと考えられる種) 近A：絶滅危惧種A(近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種) 近B：絶滅危惧種B(近い将来における絶滅の危険性が高い種) 近C：絶滅危惧種C(絶滅の危険性が高くなりつつある種) 近準：準絶滅危惧種(生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種)

表 8-14-4 重要な群落の選定基準

番号	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) 「大阪府文化財保護条例」(昭和 44 年大阪府条例第 5 号) 「大阪市文化財保護条例」(平成 11 年大阪市条例第 5 号)	国特：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 府天：府指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成 8 年、(財)日本自然保護協会)	保護上重要な群落として選定された植物群落 ランク 4：緊急に対策必要 ランク 3：対策必要 ランク 2：破壊の危惧 ランク 1：要注意
③	「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図大阪府」(平成元年、環境庁)	特定植物群落のうち以下の区分に該当するもの A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沢地、池沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
④	「第 4 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図大阪府」(平成 7 年、環境庁)	巨樹・巨木林

③ 調査地域

調査地域は、対象道路事業実施区域及びその端部から概ね 250mの範囲を目安としました。全域を踏査した上で、地表を改変しない又は自然度が低い都市域は対象外とし、調査地域を2地区（豊崎、鶴見）設定しました。

なお、植物の特性及び地形や植生の連続性を考慮しながら適宜拡大・縮小しました。

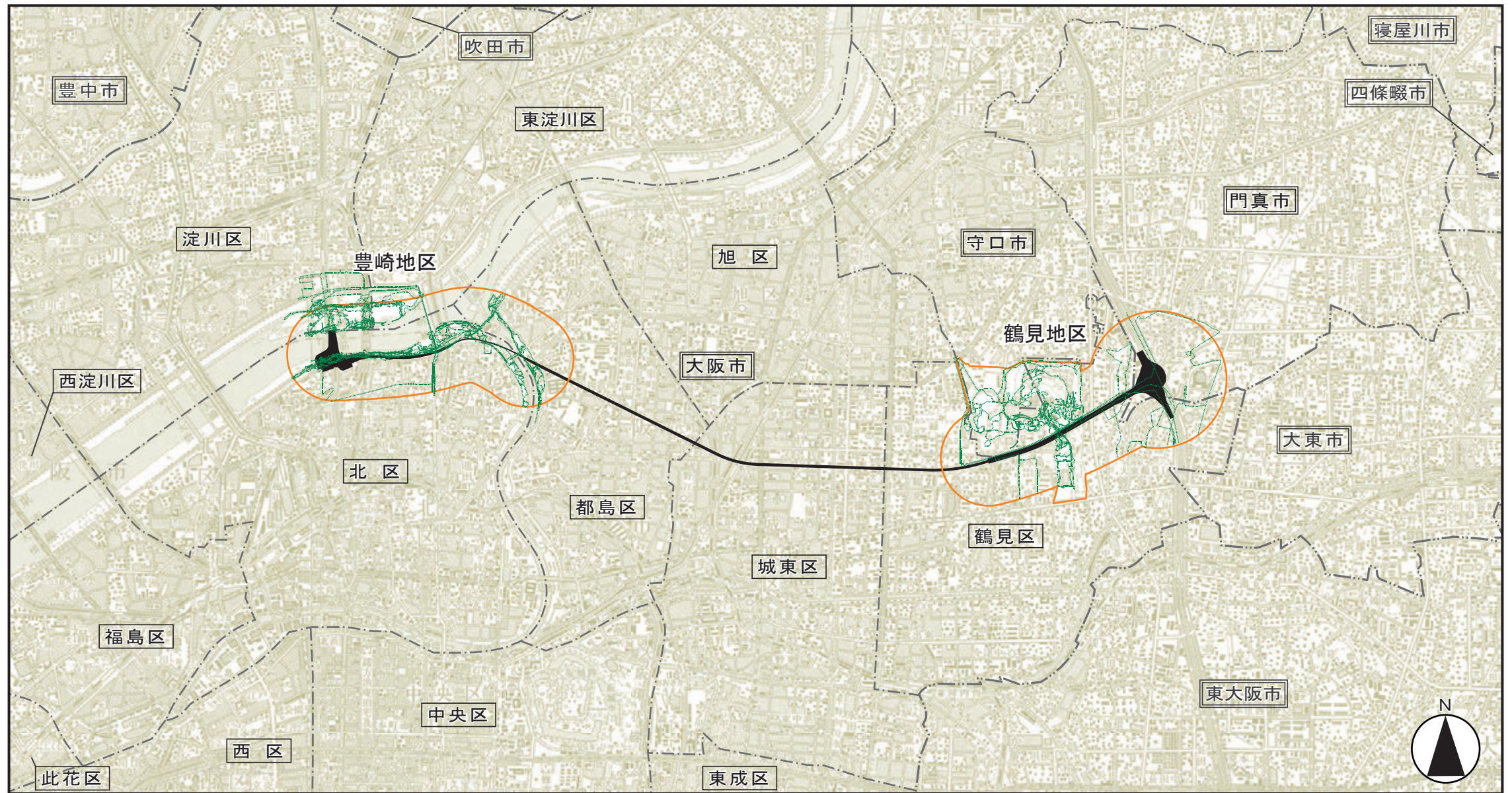
また、植生図の作成範囲については、現地調査結果に加えて、空中写真等を用いて都市域を含めて対象としました。

調査地域を図 8-14-1～図 8-14-3 に示します。

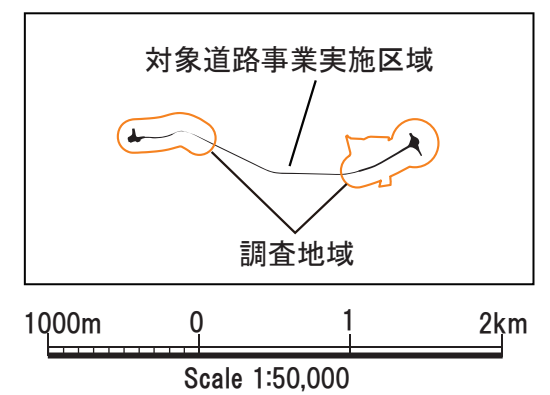
④ 調査地点

調査地点及び調査ルートは、調査対象植物の生態的な特性、周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえ、調査地域に生育する植物を効率よく把握できる場所を設定しました。

調査地点及び調査ルートは、図 8-14-1～図 8-14-3 に示すとおりです。



凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	

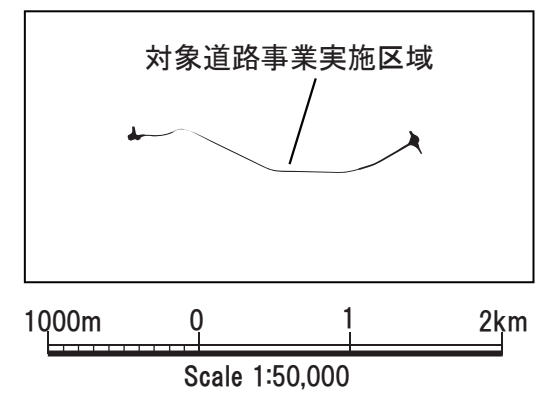


図名

図8-14-1 植物相（維管束植物）調査位置図

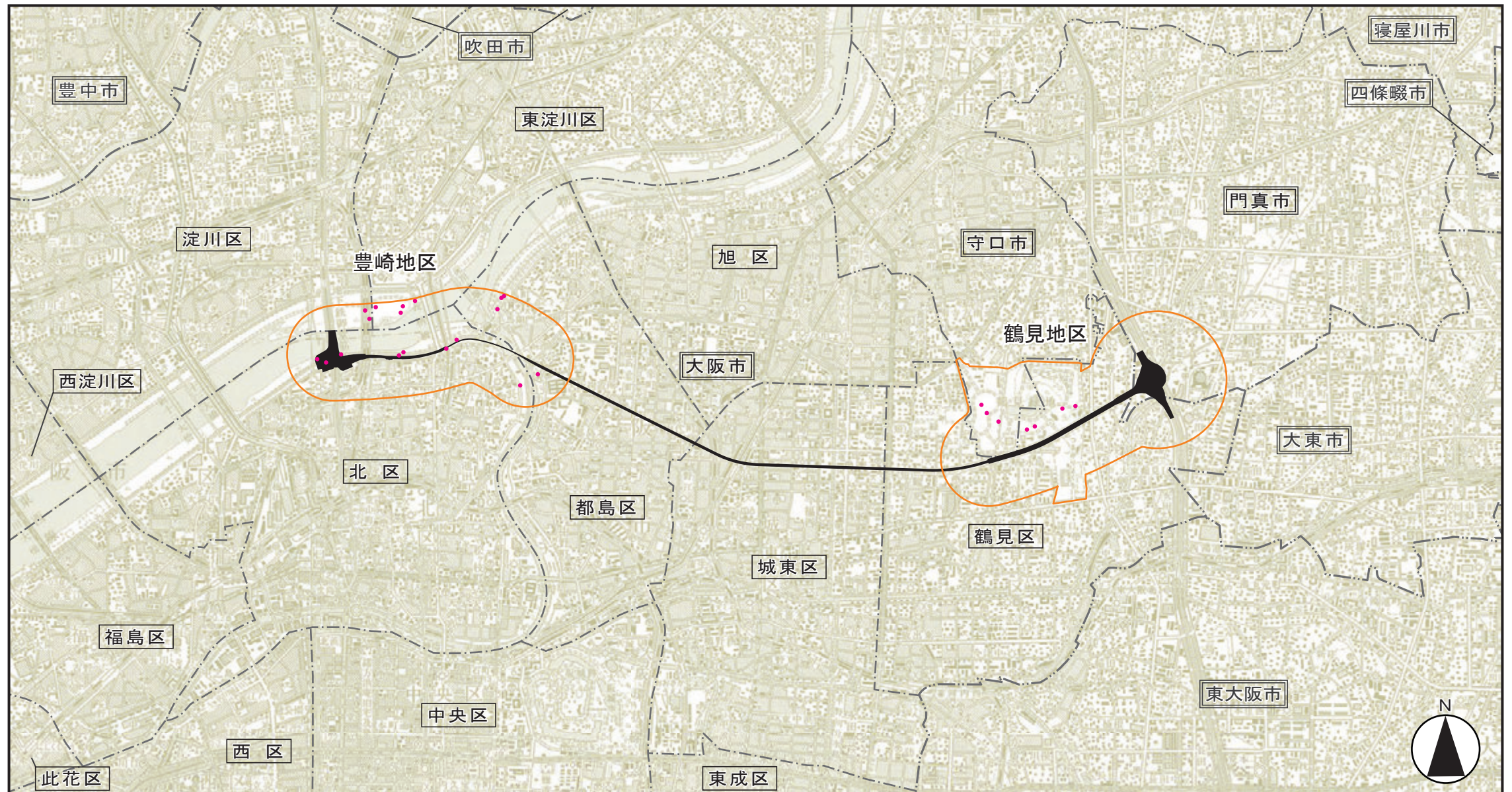


凡 例		
記号	名 称	備 考
.....	踏査ルート	
■	調査対象河川	



図名

図8-14-2 植物相（藻類）調査位置図



凡 例		
記号	名 称	備 考
●	植生調査地点	

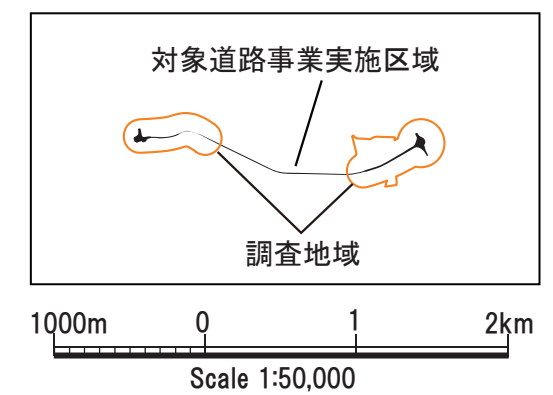


図
名

図8-14-3 植生調査位置図

⑤ 調査期間及び時期

調査期間は、平成 24 年 10 月～平成 26 年 1 月までとしました。

調査時期等は、調査対象となる植物の生態的な特性を考慮し設定しました。

各項目の調査時期は、表 8-14-5 に示すとおりです。

表 8-14-5 調査時期

項目		調査手法	調査時期
植物相	維管束植物	直接観察及び採取	秋季：平成 24 年 10 月 9～11 日 春季：平成 25 年 5 月 13～15 日 夏季：平成 25 年 7 月 24～26 日
	藻類	直接観察及び採取	冬季：平成 25 年 1 月 21～22 日 補足：平成 26 年 1 月 30～31 日*
植生		植生調査 (植物社会学的方法)	秋季：平成 24 年 10 月 9～12 日 春季：平成 25 年 5 月 13～15 日

※重要な種の分布状況の詳細把握のため、実施した補足調査。

(2) 調査の結果

① 植物の生育の状況

現地調査結果の概要は、表 8-14-6(1)～(2)に示すとおりです。

表 8-14-6(1) 現地調査結果の概要（植物相）

項目		確認種数	重要な種
植物相	維管束植物	126 科 752 種	ミゾコウジュ、ウラギク、エゾウキヤガラ、ミコシガヤ、ワンドスゲ、シオクグの 6 種
	藻類	22 科 54 種	アヤギヌ、ホソアヤギヌ、タニコケモドキ、シャジクモの 4 種

表 8-14-6(2) 現地調査結果の概要（植生）

項目	群落等数	確認された群落分類
植生	24 群落等	河辺林、河川植生、二次草原、低木群落、樹林地、耕地、市街地等、開放水域

a) 植物相(維管束植物)の状況

現地調査の結果、表 8-14-7 に示すとおり、126 科 752 種の維管束植物が確認されました。

確認された維管束植物は、スギナ、オニヤブソテツ、エノキ、カラムシ、イタドリ、ヨウシュヤマゴボウ、シロザ、ヒカゲイノコズチ、センニンソウ、アオツヅラフジ、ドクダミ、マメグンバイナズナ、オヘビイチゴ、ネムノキ、カタバミ、エノキグサ、センダン、ハゼノキ、ニシキギ、ノブドウ、アレチウリ、メマツヨイグサ、ノチドメ、テイカカズラ、ガガイモ、ヘクソカズラ、コヒルガオ、クコ、トキワハゼ、オオバコ、スイカズラ、ヨモギ、イ、ツユクサ、メリケンカルカヤ、ヒメガマ、メリケンガヤツリ等でした。

表 8-14-7 植物相(維管束植物)確認種数一覧

No.	分類		科数	種数	調査時期			
					H24	H25		
					秋季	春季	夏季	
1	シダ植物		10	17	7	11	11	
2	裸子植物		7	21	14	18	8	
3	被子植物	双子葉植物	離弁花類	70	344	185	261	178
4		合弁花類		24	184	80	145	93
5		単子葉植物	15	186	88	116	106	
合計			126 科	752 種	100 科 374 種	112 科 551 種	105 科 396 種	

注1) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しました。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

b) 植物相(藻類)の状況

現地調査の結果、表 8-14-8 に示すとおり、22 科 54 種の藻類が確認されました。

確認された藻類は、カサネイタランソウ、クセノコックス、サヤユレモ、アヤギヌ、シオミドロ、スジタルケイソウ、オビモドキケイソウ、ウスバアオノリ、イカダモ、サヤミドロ、ヒザオリ、シャジクモ等でした。

表 8-14-8 植物相(藻類)確認種数一覧

No.	綱名	目数	科数	種数	調査時期		
					H25	H26	
					冬季	冬季	
1	藍藻綱	3	3	10	10	2	
2	紅藻綱	1	2	3	3	2	
3	褐藻綱	1	1	1	1	1	
4	珪藻綱	2	8	25	25		
5	緑藻綱	6	7	14	14	4	
6	車軸藻綱*	1	1	1	1		
合計		6 綱	14 目	22 科	54 種	14 目 22 科 54 種	5 目 7 科 9 種

注1) 分類(目名・科名・種名)は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト」(国土交通省、平成27年)に準拠しました。

注2) 調査時期の数値は、種数を示しています。

※車軸藻綱は、魚類調査時(H25. 7)に確認されました。

c) 植生の状況

現地調査の結果、表 8-14-9(1)～(2)に示すとおり、24 の群落等が確認されました。

確認された群落分類は、河辺林、河川植生、二次草原、低木群落、樹林地、耕作地、市街地等、開放水域でした。

現存植生図を図 8-14-4 に示します。

表 8-14-9(1) 植物群落の概要

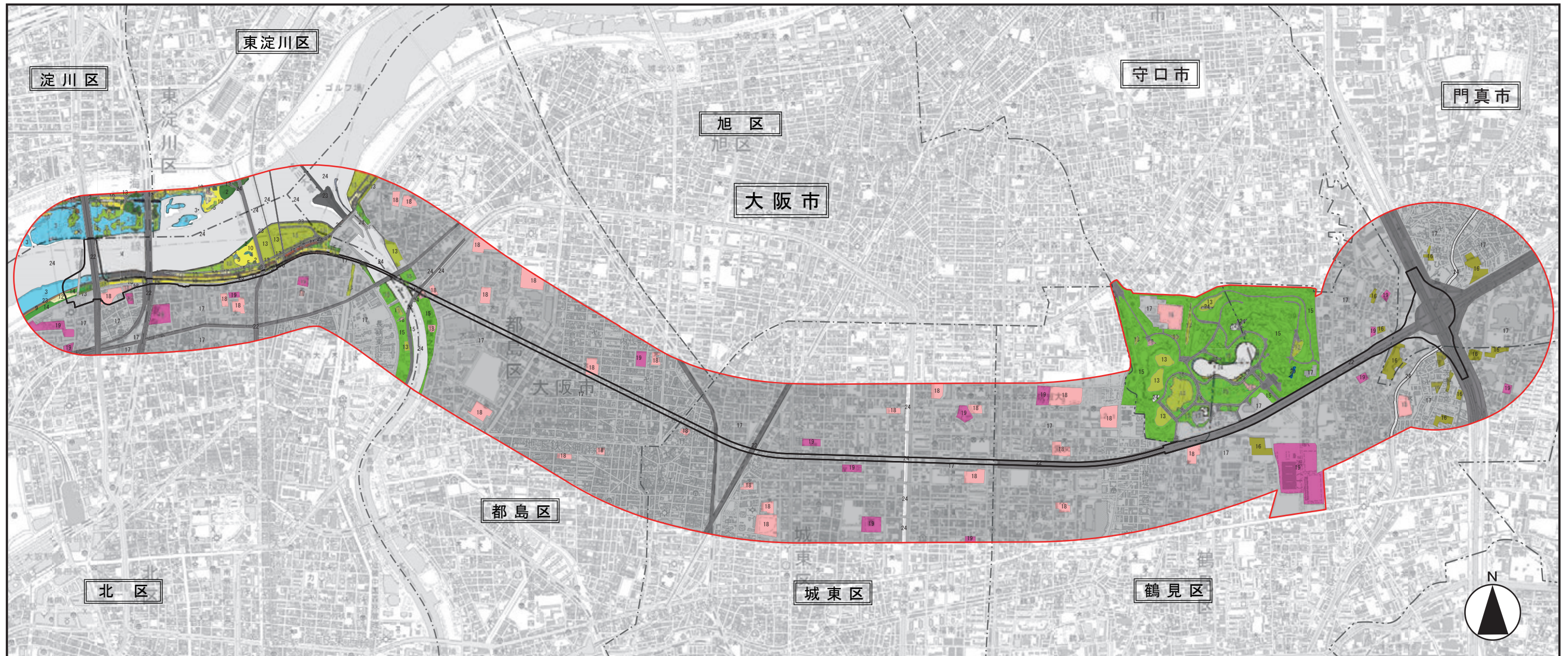
凡例 番号	群 落 分 類	群 落 名	階 層 構 造 と 主 要 構 成 種	分 布 状 況 等
1	河 辺 林	ジャヤナギーアカ メヤナギ群集	・高木層：ジャヤナギ、 アカメヤナギ ・草本層：ヨシ、オギ等	淀川右岸河川敷のやや地 盤高の低い湿潤な立地に 分布
2		センダン群落	・高木層：センダン ・亜高木層：ムクノキ ・低木層：センダン、ムクノキ、 ヤブツバキ	主に淀川右岸河川敷に分 布
3	河 川 植 生	ヨシ群落	・草本層：ヨシ	淀川右岸及び左岸の河川 敷の水際に広く分布する ほか、鶴見緑地公園の池 にも小規模な群落が分布
4		セイタカヨシ群落	・草本層：セイタカヨシ、セイタ カアワダチソウ、ヨモ ギ、ノイバラ	淀川左岸の河川敷に分布
5		オギ群集	・草本層：オギ、ヨモギ	淀川右岸及び左岸の河川 敷に広く分布
6		ホザキノフサモ群 落	・草本層：ホザキノフサモ	淀川右岸水路に分布
7	二 次 草 原	オオイヌタデーオ オクサキビ群落	・草本層：クサネム、 オオクサキビ	淀川右岸の河川敷に分布
8		コセンダングサ群 落	・草本層：コセンダングサ	淀川大堰付近に分布
9		メヒシバーエノコ ログサ群落	・草本層：メヒシバ、アキメヒシ バ、ヨモギ	淀川左岸の堤防上に分布
10		セイタカアワダチ ソウ群落	・草本層：セイタカアワダチソ ウ、ヨモギ	淀川右岸及び左岸の河川 敷から堤防法面、鶴見緑 地公園の池周辺に分布
11		セイバンモロコシ 群落	・草本層：セイバンモロコシ	淀川左岸の堤防上に分布
12		チガヤ群落	・草本層：チガヤ	淀川右岸及び左岸の河川 敷から堤防法面に分布
13		人工草地	・草本層：ネズミムギ、 コメツブツメクサ等	淀川右岸及び左岸の河川 敷や堤防法面、鶴見緑地 公園に分布
14	低 木 群 落	クズ群落	・草本層：クズ	主に淀川左岸の河川堤防 上に分布

表 8-14-9(2) 植物群落の概要

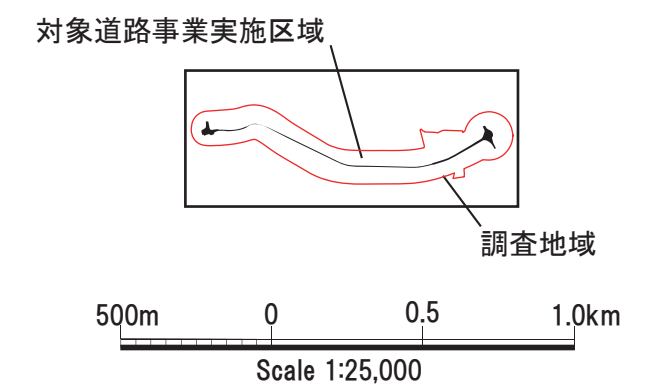
凡例 番号	群 落 分 類	群落名	階層構造と主要構成種	分布状況等
15	樹林地	植栽樹林群	<ul style="list-style-type: none"> ・高木層：アカマツ、コナラ、アラカシ、シラカシ、クスノキ、ケヤキ、ソメイヨシノ、アキニレ等 ・亜高木層：クスノキ ・低木層：シラカシ、マテバシイ、ムクノキ、エノキ、トウネズミモチ、アオキ、サルスベリ、ニシキギ ・草本層：メヒシバ、エノコログサ、ヒメジョオン、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、ギョウギシバ、ヤブラン 	淀川支流の大川沿いの公園や鶴見緑地公園にみられる植栽樹林
16	耕作地	(畑地)畑地雑草群落	—	主要地方道大阪中央環状線周辺に点在
17	市 街 地 等	市街地	—	市街地
18		裸地・造成地	—	人工的に整備された裸地、学校のグラウンド等
19		植栽・残存樹林群をもった公園	—	市街地に点在する緑地公園等
20		人工湿地（自然体験観察園）	—	鶴見緑地内にある人工湿地。自然体験観察園として水田、溜池、ハス田が分布する。
21		自然裸地	—	淀川河川敷にみられる小規模な裸地
22		幹線道路・線路等	—	主要な幹線道路や高速道路、線路等
23		コンクリート構造物	—	淀川や淀川支流の大川の河川構造物（護岸、堤等）
24	開 放 水 域	—	—	河川や池等の水面

注1) 凡例番号は、図8-14-4の凡例番号を示しています。

注2) 表中の階層構造と主要構成種は、Braun-Blanquet(1964)に基づく植物社会学的手法（コドラート法）に基づく調査を用いて、現地調査時の植生の生育種状況を高木層は概ね8m以上、亜高木層は概ね5m以上、低木層は概ね0.7~5m、草本層は、地表上から概ね0.5mの高さのところに葉を茂られている植物群と区分した。



凡		例	
記号	番号	記号	番号
■	1	■	9
■	2	■	10
■	3	■	11
■	4	■	12
■	5	■	13
■	6	■	14
■	7	■	15
■	8	■	16
■		■	17
■		■	18
■		■	19
■		■	20
■		■	21
■		■	22
■		■	23
■		■	24



図名

図8-14-4 現存植生図

② 重要な種及び群落の状況

a) 重要な種の状況

現地調査で確認された種のうち、重要な植物は、維管束植物 6 種、藻類 4 種です。
 現地調査で確認された重要な植物を表 8-14-10(1)～(2)に示します。

表 8-14-10(1) 現地調査により確認された重要な植物（維管束植物）

No.	分類	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	
1	種子植物	シソ科	ミゾコウジ ^ユ			NT	準絶	近C	
2		キク科	ウラギク			NT	準絶	近準	
3		カヤツリゲサ科	エゾウキヤカラ						近B
4			ミソカ ^ヤ					準絶	近C
5			ワト ^{スゲ}			VU	I類		近A
6			シオク ^ク					準絶	近C
合計		3科	6種	0種	0種	3種	5種	6種	

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-3に示すとおりです。

表 8-14-10(2) 現地調査により確認された重要な植物（藻類）

No.	綱名	目名	科名	種名	選定基準			
					①	②	③	④
1	紅藻綱	イゲ ^ス 目	コノハリ科	アヤギ ^ヌ			NT	準絶
2				ホリアヤギ ^ヌ			NT	準絶
3			フジマツモ科	タニコモト ^キ			NT	
4	車軸藻綱	シャジクモ目	シャジクモ科	シャジクモ [※]			VU	
合計	2綱	2目	3科	4種	0種	0種	4種	2種

注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-3に示すとおりです。

※シャジクモは、魚類調査時(H25.7)に確認されました。

b) 重要な群落の状況

既存資料調査の結果、調査地域では「大阪府文化財保護条例」（昭和 44 年大阪府条例第 5 号）に基づく「葎島のくす」が記録されています。

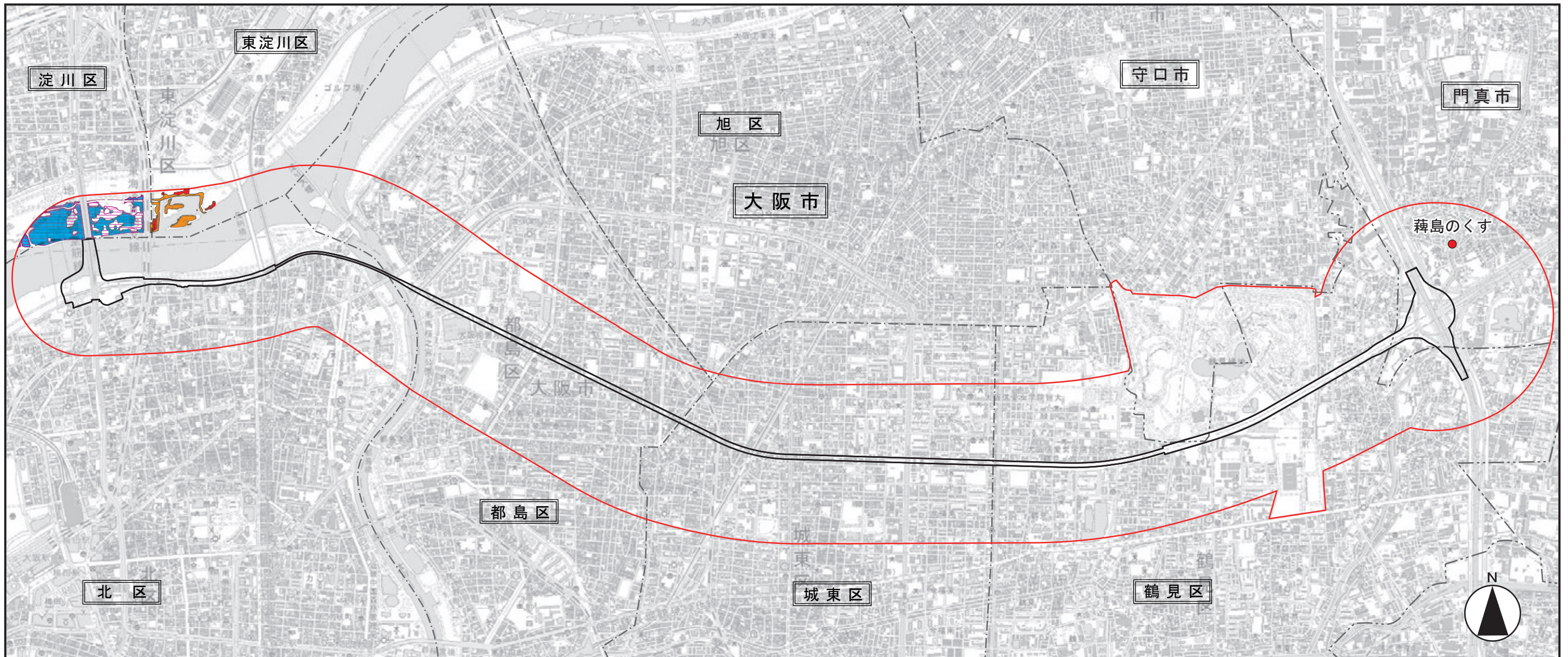
現地調査の結果、「植物群落レッドデータ・ブック」（平成 8 年、(財)日本自然保護協会）に該当する葎島のくす、オギ群落（オギ群集）、ヨシ群落（カモノハシ・ヨシ群落）、ヨシ群落（カサスゲ群集及びヨシ群落）、西中島の低湿地植物群落が確認されました。

既存資料調査及び現地調査により確認された重要な植物群落等を表 8-14-11 に、確認位置を図 8-14-5 に示します。

表 8-14-11 既存資料調査及び現地調査により確認された重要な植物群落等

No.	群落等名 (文献・資料における名称)	該当する群落・群集	所在地	選定基準			
				①	②	③	④
1	葎島のくす	葎島のくす	門真市	府天			
2	オギ群落 (オギ群集)	オギ群集	大阪市東淀川区		ランク 2		
3	ヨシ群落 (カモノハシ・ヨシ群落)	ヨシ群落	大阪市淀川区		ランク 3		
4	ヨシ群落 (カサスゲ群集及びヨシ群落)	ヨシ群落	大阪市東淀川区		ランク 2		
5	西中島の低湿地植物群落	ジャヤナギ・アカヤナギ群落、ヨシ群落、オギ群集、オギノササ群落	大阪市淀川区		ランク 3		

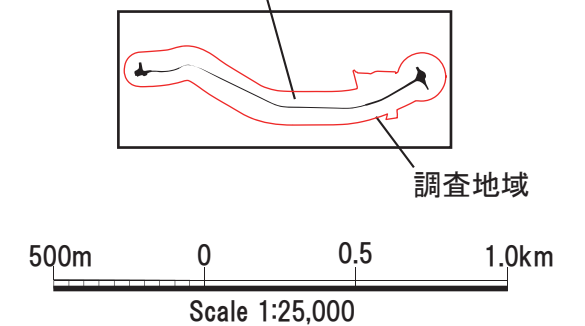
注) 選定基準：選定基準（選定基準番号）及びランクは表8-14-4に示すとおりです。



凡 例			
番号	記号	名 称	所在地
1	●	葦島のくす	門真市
2	■	オギ群落 (オギ群落)	大阪市東淀川区
3	■	ヨシ群落 (カモノハシ・ヨシ群落)	大阪市淀川区
4	■	ヨシ群落集 (カサスゲ群落及びヨシ群落)	大阪市東淀川区
5	■	西中島の低湿地植物群落	大阪市淀川区

出典：大阪府指定文化財一覧表（大阪府ホームページ）

対象道路事業実施区域



図名

図8-14-5 重要な植物群落等の分布

2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測手法

植物の重要な種及び群落について、「道路環境影響評価の技術手法」に基づき、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた解析により行いました。

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置位置、道路構造別の道路の存在位置、換気塔の存在位置と重要な種・群落等の生育地の分布範囲から、生育地・生育基盤が消失・縮小する区間及びその程度を把握しました。

また、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在による対象種の生態を踏まえた生育環境の質的変化の程度（濁水^{*}、地下水位の変化）についても把握しました。なお、道路構造物による日照変化の影響については、豊崎地区の高架部は幅員の狭いランプ部であること、鶴見地区は鶴見緑地から離れていること、換気塔については高さはあるものの、細い形状であることから、著しい日照変化は生じないと考え、生育環境の質的変化の把握対象外としました。

次に、それらが重要な種・群落等に及ぼす影響の程度を、科学的知見を参考に定性的に予測しました。

予測手順を図 8-14-6 に示します。

^{*}濁水による環境変化については、以下の工事計画を基に予測を行いました。

- ・河川内における橋梁基礎工事においては、改変面積を極力抑え、止水性の高い仮締切工法を採用するとともに、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行います。
- ・土工事及びトンネル工事（開削工法）に伴う裸地等の表土から降雨等により発生する濁水については、必要に応じて裸地の整形、仮設沈砂池の設置、モニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。
- ・シールド工法によるトンネル工事に伴って発生する濁水及び湧水については、濁水処理施設を設置し、必要に応じてモニタリング等を行うことにより適切に管理・処理し、公共下水道へ排水します。

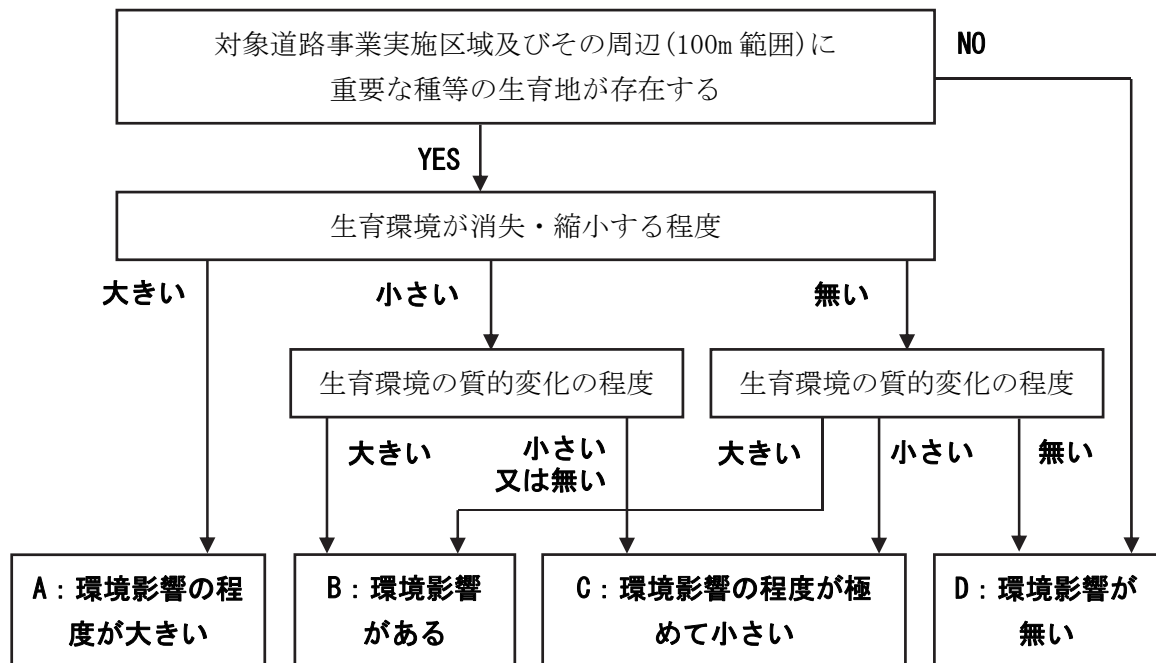


図 8-14-6 植物の予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、植物の生育の特性を踏まえて、重要な種及び群落等に係る環境影響が考えられる地域としました。

地表部が改変され、直接的な影響を受ける可能性のある地域として「対象道路事業実施区域内^{※1}」を、また工事作業による間接的な影響を受ける可能性のある地域として、「対象道路事業実施区域外^{※2}」を予測地域としました。

※1 対象道路事業実施区域内 : 直接改変を受ける対象道路事業実施区域内（工事中は工事施工ヤード及び工事用道路等の設置を含む範囲）。

※2 対象道路事業実施区域外 : 対象道路事業実施区域端から100mの範囲及び100m以遠に区分。

③ 予測対象時期等

予測の対象時期は、事業特性及び重要な種及び群落等の生態的特性を踏まえて、重要な種及び群落等に係る環境影響を的確に把握できる時期としました。

具体的には、工事用道路の建設工事や工事施工ヤードの整備、開削工事、橋梁部の基礎工事等、現状の土地を改変する段階からの工事实施時期並びに道路施設が完成・供用する時期としました。

④ 予測対象種等の選定

予測対象種等は、現地調査により対象道路事業実施区域及びその周辺で生育が確認された重要な種及び群落、既存資料において対象道路事業実施区域及びその周辺における分布が示されている群落及び生育地を選定しました。

予測対象種等は、表 8-14-12 に示すとおりで、維管束植物 6 種、藻類 4 種及び植物群落 5 群落等です。

表 8-14-12 予測対象種

番号	項目	種名	確認位置	
			豊崎地区	鶴見地区
1	維管束植物	ミヅコウジユ	○	
2		ウラギク	○	
3		エゾウキカガラ		○
4		ミコカヤ	○	
5		ワトスガ	○	
6		シオクダ	○	
7	藻類	アヤギヌ	○	
8		ホリアヤギヌ	○	
9		タニコケトキ	○	
10		シヤジケモ	○	
11	植物群落	葎島のくす		○
12		オギ群落(オギ群集)	○	
13		ヨシ群落(カモハシ・ヨシ群落)	○	
14		ヨシ群落(カスガ群集及びヨシ群落)	○	
15		西中島の低湿地植物群落	○	

(2) 予測の結果

① 予測結果の概要

重要な種及び群落等の予測結果の概要は表 8-14-13 に示すとおりです。

生育環境への影響については、図 8-14-6 の手順により、以下のように整理しました。

A：環境影響の程度が大きい【生育環境が消失・縮小する程度が大きい】

B：環境影響がある【生育環境の質的变化の程度が大きい】

C：環境影響の程度が極めて小さい【生育環境の消失・縮小、質的变化の程度が小さい】

D：環境影響が無い【生育環境の消失・縮小、質的变化が無い】

表 8-14-13 重要な種の予測結果概要

番号	分類	種名	確認位置 の環境	確認位置（対象道路事業実施 区域との位置関係）			確認位置の 改変状況		生息環境への 影響	
				区域内	区域外		改変の 有無	主な道 路構造	工事中	供用後
					区域から 100m 以内	区域から 100m 以遠				
1	維 管 束 植 物	シヅコウジユ	河川の乾性草地		○	○	無		D	D
2		ウラギク	河川の湿性草地	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
3		エゾウキヤガラ	低地の公園			○	無		D	D
4		ミソカヤ	河川の乾性草 地、湿性草地		○	○	無		D	D
5		ワンドスケ	河川の湿性草地		○		無		D	D
6		シオクガ	河川の湿性草地	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
7	藻 類	アヤギヌ	河川の湿性草地	○			有	ランプ部 (豊崎)	C	C
8		ホリアヤギヌ	河川の湿性草 地、消波ブロック等	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
9		タニコケモトキ	河川の湿性草 地、消波ブロック等	○	○	○	有	ランプ部 (豊崎)	C	C
10		シャジクモ	開放水域(淀川 本流, 大川)			○	無		D	D
11	植 物 群 落 等	葎島のくす	低地の市街地			○	無		D	D
12		オギ群落 (オギ群集)	河川の湿性草地			○	無		D	D
13		ヨシ群落(カモノ ハシ・ヨシ群落)	河川の湿性草地		○	○	無		D	D
14		ヨシ群落(カサガ 群集及びヨシ群 落)	河川の湿性草地			○	無		D	D
15		西中島の低湿 地植物群落	河川の湿性草地		○	○	無		D	D

② 予測結果

植物の重要な種及び群落の予測結果を以降に示します。

なお、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置については、対象道路区域内を極力利用することで植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としており、改変は道路構造物設置箇所周辺に限られることから、工事中の一時的な改変による環境変化は小さいと考えられます。

a) 維管束植物

調査地域に存在する重要な維管束植物の予測結果は、表 8-14-14(1)～(6)に示すとおりです。

表 8-14-14(1) 重要な維管束植物の予測結果（ミゾコウジュ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、沖縄に分布する。 ・越年草で、湿った草地や水田畦、河原等に生育する。 ・5-6月、茎の上部に花穂を出し、淡紫色で唇形の小花をつける。 		
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の乾性草地において2箇所を確認された。	
	確認時期	H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域から100m以内1箇所・100m以遠1箇所(淀川)
鶴見		確認されなかった	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	生育地はいずれも対象道路事業実施区域から50m以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の乾性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(2) 重要な維管束植物の予測結果（ウラギク）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道（東部）、本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州に分布する。 ・越年草で、海浜（塩性湿地）に生育する。 ・花期は 8-11 月。多数の頭花をゆるい散房状につける。 		
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 23 箇所を確認された。	
	確認時期	H24 秋季、H25 春季、夏季	
	確認位置	豊崎	対象道路事業実施区域内 7 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 4 箇所・100m 以遠 12 箇所(淀川)
鶴見		確認されなかった	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 23 箇所のうち 7 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、残りの 16 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。		

表 8-14-14(3) 重要な維管束植物の予測結果（エゾウキヤガラ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。 ・多年草で、海岸近くの湿地等に生育する。 ・果は 7-10 月に熟す。花序は頭状に密集する 1-6 個の無柄の小穂からなる。 		
予測地域における確認状況	確認状況	低地の公園において 1 箇所を確認された。	
	確認時期	H25 春季	
	確認位置	豊崎	確認されなかった
鶴見		対象道路事業実施区域から 100m 以遠 1 箇所(鶴見緑地)	
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本種の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。また、トンネル・掘削工事による水位低下等の質的变化も僅かであることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、地下構造物による鶴見緑地の水域の水位低下等の質的变化も僅かであり、本種の主要な生育環境である鶴見緑地内の湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。		

表 8-14-14(4) 重要な維管束植物の予測結果（ミコシガヤ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方以北の本州に分布する。 ・多年草で、暖温帯から冷温帯にかけての平地や河川の縁等、やや湿った草地に生育する。 ・果期は5-7月。花序は狭卵形で長さ3-6cm、上方に雄花、下方に雌花をつける。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の乾性草地、湿性草地において9箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から100m以内7箇所・100m以遠2箇所(淀川)</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から100m以内7箇所・100m以遠2箇所(淀川)	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から100m以内7箇所・100m以遠2箇所(淀川)				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地はいずれも対象道路事業実施区域から約40m以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の乾性草地、湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-14-14(5) 重要な維管束植物の予測結果（ワンドスゲ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州（近畿地方）、九州に分布する。 ・多年草で、河川下流や湖縁に生育する。 ・果期は4-5月。上部2-4個の小穂は雄性、長さ3-6cm。下方の小穂は雌性、長さ3-6cm。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において1箇所を確認された。			
	確認時期	H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から100m以内1箇所(淀川)</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から100m以内1箇所(淀川)	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から100m以内1箇所(淀川)				
鶴見	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じない。周辺の土工事に際しては、必要に応じて裸地の整形を行うことのほか、仮設沈砂池の設置により適切に管理・処理し、公共下水道へ排水することから濁水による環境変化は生じない。これらのことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から50m離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川の湿性草地は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-14-14(6) 重要な維管束植物の予測結果 (シオクグ)

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。 ・多年草で、海水の出入りする河口付近の湿地に生育する。 ・果期は5-6月。上方の2-4個の小穂は雄性で、ときに一部血赤色を帯びる。下方の1-2個は雌性で、長楕円形をなし、長さ1-2cm、雌花の鱗片はさび色で先はとがる。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において28箇所を確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 春季
	確認位置	豊崎
鶴見		確認されなかった
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	<p>工事の実施による本種の生育環境の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	<p>対象道路事業実施区域は本種の生育地28箇所のうち6箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、残りの22箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>	

b) 藻類

調査地域に存在する重要な藻類の予測結果は、表 8-14-15(1)～(4)に示すとおりです。

表 8-14-15(1) 重要な藻類の予測結果（アヤギヌ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州太平洋岸、瀬戸内海、九州に分布する。 ・河口域等の潮間帯のヨシの茎上等に生育する。 ・体は細線状で扁平で、叉状様に分岐し、分岐部分で僅かにくびれることもあり、幅 1-2mm で、分岐は 1.3-3mm の間隔で生ずる。分岐点の下面から出る仮根系により付着する。分岐点の上の中心細胞から内生枝を生ずる。質は薄い膜質で、乾燥するとき紙に付着しない。 		
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の湿性草地において 1 箇所を確認された。	
	確認時期	H25 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 1 箇所(淀川)
鶴見(大池・古川)		確認されなかった	
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地の消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事には止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>		
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>対象道路事業実施区域は本種の生育地 1 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、本種の生育可能な河川の湿性草地は道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>		

表 8-14-15(2) 重要な藻類の予測結果（ホソアヤギヌ）

項目	内容		
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州太平洋岸、瀬戸内海、九州、南西諸島に分布する。 ・河口域等の汽水域の潮間帯に生育する。 ・体は細い線状で扁平で横に這い、不規則な叉状様に分岐し、分岐点でくびれ、副出枝を出して多叉状分岐するように見える部分もある。分岐部分の下面から仮根系を出して付着する。分岐から次の分岐までの葉片は長さ 2-5mm、幅はふつう 0.5mm 以下になる。 		
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の湿性草地、消波ブロック等において 25 箇所を確認された。	
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季	
	確認位置	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 3 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 11 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)
		鶴見(大池・古川)	確認されなかった
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	<p>工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地、消波ブロックの消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>		
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	<p>対象道路事業実施区域は本種の生育地 25 箇所のうち 3 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、22 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地、消波ブロックは道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。</p>		

表 8-14-15(3) 重要な藻類の予測結果（タニコケモドキ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・本州太平洋岸中部、九州、南西諸島に分布する。 ・河口域等の汽水域の潮間帯に生育する。 ・体は匍匐し、斜上する側枝を持ち、緩く芝生状。主軸は無限生長し、長さ 10-40mm になり、有限生長の側枝は長さ 2-3mm で 1-2 回互生的に分枝する。中軸細胞あたり 2 段の周心細胞がある。稔性の枝では 5 個の周心細胞がある。古い匍匐部を除いて皮層を持たない。最末の小枝を除いては多管になる。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地、消波ブロック等において 20 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 冬季、H26 冬季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域内 4 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 5 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 4 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 5 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域内 4 箇所、対象道路事業実施区域から 100m 以内 5 箇所・100m 以遠 11 箇所(淀川)				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本種の生育環境である河川の湿性草地、消波ブロックの消失・縮小は、(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られるほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	対象道路事業実施区域は本種の生育地 20 箇所のうち 4 箇所を通過するが、改変は(仮称)豊崎 IC ランプ橋脚部のごく一部に限られる。また、16 箇所の生育地については、対象道路事業実施区域外にあるほか、本種の生育可能な河川の湿性草地、消波ブロックは道路事業実施区域外にも広く分布している。これらのことから、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は一部に限られ、本種の生育環境への影響は極めて小さいものと予測される。				

表 8-14-15(4) 重要な藻類の予測結果（シャジクモ）

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・国内全域に広く分布する。 ・湖沼、ため池などの水深の深い環境に生育する一方で、水田などの浅い水環境にも生育する。 ・藻体は 5-40cm、主軸（茎）の太さは 300-1000 μm。主軸から 8-11 本の小枝（輪生枝）が出て、外見はシダ植物のギナに似る。卵胞子は黒く、長さ 500-750 μ、幅 300-450 μ あり、らせん縁は 7-12 本。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の開放水域において 2 箇所を確認された。			
	確認時期	H25 夏季(魚類調査時)			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎(淀川・大川)</td> <td>対象道路事業実施区域から 100m 以遠 2 箇所(淀川・大川)</td> </tr> <tr> <td>鶴見(大池・古川)</td> <td>確認されなかった</td> </tr> </table>	豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 100m 以遠 2 箇所(淀川・大川)	鶴見(大池・古川)
豊崎(淀川・大川)	対象道路事業実施区域から 100m 以遠 2 箇所(淀川・大川)				
鶴見(大池・古川)	確認されなかった				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本種の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本種の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れているため生育環境の消失・縮小及び変化はなく、本種の主要な生育環境である淀川・大川の開放水域は残されることから、本種の生育環境への影響は無いものと予測される。				

c) 植物群落等

調査地域に存在する重要な植物群落等の予測結果は、表 8-14-16(1)～(5)に示すとおりです。

表 8-14-16(1) 重要な植物群落等の予測結果（蔦島のくす）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・樹高約 10 メートル、幹周 7 メートルで、地上 1 メートル余りで三幹にわかれ、枝は四方に広がる。生育は良好。 ・市内の樹木では薫蓋クスに次ぐ規模があり、推定樹齢は約 400 年である。 ・民家に所在するクスとしては珍しい巨樹であることから、昭和 45 年 2 月 20 日、大阪府の天然記念物に指定されている。 	
予測地域における 確認状況	確認状況	低地の市街地において 1 箇所確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 春季
	確認位置	豊崎 ー 鶴見 対象道路事業実施区域から 100m 以遠
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本個体の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本個体の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本個体の生育環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	生育地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本個体の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本個体の生育環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-14-16 (2) 重要な植物群落等の予測結果（オギ群落（オギ群集））

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、本州、四国、九州に分布する。 ・河川中流部の高水敷や湖畔に成立する大型の多年生草原。 ・上層にギギを密生し、下層に僅かに他の植物を伴うことが多い。 	
予測地域における 確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 春季
	確認位置	豊崎 対象道路事業実施区域から 100m 以遠 鶴見 ー
工事施工ヤード及び 工事用道路等の設置 による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本群落の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本群落の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気 塔の存在による影響 の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。	

表 8-14-16(3) 重要な植物群落等の予測結果（ヨシ群落（カモノハシ・ヨシ群落））

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 世界の暖帯から亜寒帯に広く分布する。 河川の沖積地や湖沼の岸、河口付近の塩湿地、湿原、放棄水田跡地等、幅広い立地に優占群落を形成する。 密生した単層の群落をつくるが上層にハクキやヤギ類を、下層にシロネやその他の種を伴うことも多い。 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 100m 以内</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>—</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以内				
鶴見	—				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本群落の消失・縮小は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域外であり、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-14-16(4) 重要な植物群落等の予測結果（ヨシ群落（カサスゲ群集及びヨシ群落））

項目	内容				
生態	<ul style="list-style-type: none"> 世界の暖帯から亜寒帯に広く分布する。 河川の沖積地や湖沼の岸、河口付近の塩湿地、湿原、放棄水田跡地等幅広い立地に優占群落を形成する。 密生した単層の群落をつくるが上層にハクキやヤギ類を、下層にシロネやその他の種を伴うことも多い 				
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。			
	確認時期	H24 秋季、H25 春季			
	確認位置	<table border="1"> <tr> <td>豊崎</td> <td>対象道路事業実施区域から 100m 以遠</td> </tr> <tr> <td>鶴見</td> <td>—</td> </tr> </table>	豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以遠	鶴見
豊崎	対象道路事業実施区域から 100m 以遠				
鶴見	—				
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置箇所は、本群落の生育地から影響が生じない程度に十分離れており、本群落の生育環境の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。				
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域から 100m 以上離れており、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。				

表 8-14-16(5) 重要な植物群落等の予測結果（西中島の低湿地植物群落）

項目	内容	
生態	<ul style="list-style-type: none"> ・河口付近等の砂質の沿岸のうち、海水または汽水に浸る場所に見られる群落複合。砂浜植物群落複合に隣接していたり、その一部として含まれていることもある。 ・塩分濃度や満潮時の海面との位置関係に対応して、耐塩性のある湿地植物からなる草本群落または低木群落（マングローブ）が配列している。 ・特殊な立地であるため、そこに特有の植物が多く、群落の破壊が種の絶滅に直結しやすい。 	
予測地域における確認状況	確認状況	河川の湿性草地において確認された。
	確認時期	H24 秋季、H25 春季
	確認位置	豊崎
鶴見		—
工事施工ヤード及び工事用道路等の設置による影響の予測	工事の実施による本群落の消失・縮小は生じないほか、河川内工事に際しては止水性の高い仮締切工法の採用、必要に応じて切り回し水路の設置や仮設沈砂池の設置を行うことから濁水による環境変化は極めて小さい。これらのことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。	
道路の存在及び換気塔の存在による影響の予測	群落の分布地は対象道路事業実施区域外であり、本群落の消失・縮小及び変化は生じないことから、本群落の生育環境への影響は無いものと予測される。	

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討の状況

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響について、事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として表 8-14-17 に示すとおり、環境保全措置の検討を行いました。

表 8-14-17 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置		実施の 適 否	適否の理由
回避・低減	工事従事者への講習・指導	適	工事区域外への立ち入りや重要な種の分布地への立ち入りを制限することにより、人為的な攪乱による影響の低減が見込まれます。

(2) 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

環境保全措置としては、「工事従事者への講習・指導」を実施します。

環境保全措置の実施主体は事業者です。環境保全措置の実施内容等の検討結果は表 8-14-18 に示すとおりです。

表 8-14-18 環境保全措置の検討結果

実施内容	種類	工事従事者への講習・指導
	位置	(仮称)豊崎ICランプ部施工箇所
保全措置の効果		人為的な攪乱による影響を低減できます。
他の環境への影響		なし

4) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより行いました。

(2) 評価の結果

① 回避又は低減に係る評価

対象道路は、主にトンネル構造を採用するとともに、明かり部・換気所については極力既存道路の敷地を利用し植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としています。工事施工ヤード及び工事用道路等については、対象道路事業実施区域内及び既存道路を極力利用することで植物の生育環境の改変をできる限り避けた計画としているほか、河川内の橋脚の設置を極力回避するとともに、止水性の高い適切な仮締切工法の採用、必要に応じて仮設沈砂池等の設置を行うことで、水生植物の生育環境への影響をできる限り避けた計画としています。

予測の結果、重要な種及び群落への影響は無い又は極めて小さいと予測されました。

また、環境保全措置として、表 8-14-18 に示す「工事従事者への講習・指導」を実施することとしています。

これらのことから、工事施工ヤードの設置、工事用道路等の設置、道路（地表式又は掘割式、嵩上式）の存在及び換気塔の存在に係る植物に関する影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されていると評価します。

なお、予測し得ない影響が生じた場合は、必要に応じ有識者等の助言を得ながら別途対策を講じることとします。